



2005 年版

ワイズメンズクラブ
連絡主事ハンドブック

日本YMCA同盟
ワイズメンズクラブ西日本区

はじめに

国際的に広がっている YMCA の中でも、比較的大きな運動を展開しているところには、ワイズメンズクラブが存在しています。ワイズメンズクラブができたのは、その地域の YMCA を支えていた人たちが、仲間としてグループを作ったことに始まり、そして、どこでも、ワイズの目的は YMCA 支援としているのです。

しかし、今日の世界の YMCA との交流を通して分かることは、YMCA とワイズメンズクラブとの関係は、実に様々だということです。日本の状況は、実に恵まれている関係であると言えます。そして、それは決して当然のこととは言えないということも他の国の状況を見ていると分かります。

ちょっとした理解の行き違い、YMCA の方針への理解不足、ワイズメンズクラブの意義の理解不足といったように、見えない溝があるということなのです。

連絡主事は、その溝を見つけたり、橋渡ししたりという大切な役割を負っています。両方の意見を聞き、理解を深め、協力関係を作り、それが YMCA 運動への本当の貢献になるようにするのが連絡主事の役割であると考えられます。

一方、仕事の一環ではあっても、ワイズメンズクラブのメンバーとして、その仲間と共に楽しむことも大いにしてください。

より良い関係作りのために！

日本 YMCA 同盟

総主事 山田公平

連絡主事ハンドブックの改訂に際して

日頃のワイズメンズクラブとYMCAに対するご奉仕に心から感謝申し上げます。数年前からワイズとYMCAとの協働の更なる発展を願って、両者の理解を深めるために「連絡主事ハンドブック」の改訂を急ごうとの声が高まっておりました。ここに東西日本区および日本YMCA同盟担当者のお力添えによって本書の完成をみることができました。

西日本区定款の目的・モットーの中に「誠心誠意YMCAと協働し…」とあります。誠意をもってお互いが心を通わせ奉仕するためにはYMCA理解、ワイズ理解が欠かせないものであり最重要の課題であると考えます。YMCAから西日本区の各部、各クラブに配属された連絡主事は非常に重要な立場にあると同時に重い使命を帯びています。それら連絡主事の働き如何によって相互の関係が良好にもなり、時にはその逆の現象も生まれかねません。

YMCAとワイズメンズクラブが手を取りあって知恵と力を出し合い、協働できる良好な関係を作り出すために、YMCAが何をしようとしているのか、何を求めているのかといった情報の伝達や意思の疎通を図ることが、真のパートナーとして働く上で欠かせないことなのです。

連絡主事はYMCAが志している社会的、国際的な働きがワイズメンズクラブの奉仕の働き場となるようにワイズメンズクラブへ働きかけるYMCAの第一線のキーマンであり、そうあってほしいのです。

本書が経験を積んだ方、新人の方を問わず連絡主事、ワイズメンの皆さまに読まれ、活用される事を期待致しております。

ワイズメンズクラブ国際協会

2004-2005 西日本区理事 柴田 善朗

世界 Y M C A 同盟とワイズメンズクラブ国際協会

との間で結ばれた協力関係の原則

前文 1 世界 Y M C A 同盟とワイズメンズクラブ国際協会は、共にキリスト教精神に基づいて活動し奉仕する団体である。

前文 2 この二つの世界的団体は国際感覚を共有する組織として相互の啓発と調整によって活動を進める責任を有する。

前文 3 両者は現在においても将来においても相互に独立して存在すべきものである。

以上の前提に基づいて次の事項を確認する。

世界 Y M C A 同盟とワイズメンズクラブ国際協会は、新たな次元に協力関係を樹立することが求められている。この新しい協力関係のもとに、Y M C A およびワイズメンズクラブは各個 (Local)、各国 (Nation)、各地域 (Area)、さらに世界 (World) の各レベルで、独自にまたは協調して成長発展し、奉仕を続けることが望ましい。

ここに世界 Y M C A 同盟とワイズメンズクラブ国際協会は、以下の「協力関係の原則」を採択する。

1. 両者はキリスト教精神に基づき、人々に奉仕することを目的とし、その奉仕はあらゆる人々に対して、わけ隔てなく行われることを確認する。
2. 両者の協力関係は、まず両者の共通目的が何であるかを自覚することから始め、その上で具体的課題、プログラム、事業を選定するという手順で協働・支援してゆくことにする。
3. 両者はこの過程で、同等の責任を負うことを確認し、構想の段階から計画の立案、資金負担、実施、反省、評価の段階まで、等しく分担することを期待する。
4. 両者は協力して、いかなることを実行するにあたって、お互いに等しく恩恵を与え、また恩恵に浴することを期待する。
5. 両者は、各地方や、各国、地域さらには世界のレベルで、各々自由に相互に参画し合うことができるようにし、このようにして、協力関係の強化をはかることを期待する。
6. 協力関係の効果は両者の信頼と協力の上にたつものであり、協力関係を保持することで、お互いに多くの潜在的な恩恵が得られ、さらにお互いに協力しうる方法で助け合いながら、相互の発展を助長しあうことを認識する。このことは特に Y M C A がワイズメンの拡張とその会員の増加をより一層強力に支援することによって逆に、Y M C A のサービスクラブとしてのワイズの潜在能力が増大することでも明らかである。

締結 1998年7月17日

訳文 1982年 奈良 昂

部分修正 2000年5月 重村利幸

部分修正 2001年6月 櫻井浩行

目 次

はじめに	1
連絡主事ハンドブックの改訂に際して	2
世界 YMCA 同盟とワイズメンズクラブ国際協会 との間で結ばれた協力関係の原則	3
I ワイズメンズクラブの目的とモットー	5
1. ワイズメンズクラブ国際協会西日本区の目的とモットー	5
2. 国際協会西日本区を構成する各クラブの目的	5
II ワイズメンズクラブと Y M C A の関係	5
III ワイズメンズクラブ連絡主事について	6
1. 連絡主事の役割	6
2. 連絡主事の機能の推移	6
3. 連絡主事への呼称の変遷	7
4. 各 Y M C A における「連絡主事統括者」の役割	7
5. 西日本区連絡主事の役割	7
IV. 連絡主事の役割	8
1. クラブにおける連絡主事の役割	8
2. 所属 Y M C A における責務	9
3. 連絡主事の会費、集会への出席費用及び献金に対する扱い	9
編 集 後 記	10

I. ワイズメンズクラブの目的とモットー

1. 国際協会西日本区の目的とモットー

- (1) ワイズメンズクラブ国際協会西日本区（以下西日本区という）は、国際憲法の精神に基づき、あらゆる人々が宗教、信条の相違を超えて互いに親しく交わり、力を合わせ国際協会の綱領と目的の達成を目指すとともに、この運動を広く西日本区内に拡張するために協力することにある。
- (2) 前項の目的を達成するために、国際協会の綱領に掲げられているイエス・キリストが示された愛と奉仕の実践を目指し、そのための活動の指針を提示し、各クラブの協調を図り、研鑽の機会を提供するとともに、誠心誠意Y M C Aと協働し、東日本区を始め国際協会の各組織と協力することによって、よりよい世界の実現のために努力する。
- (3) ワイズメンズクラブのモットーは「強い義務感を持つ。義務は全ての権利に伴う」である。
- (4) この目的とモットーのもとに、2005年1月現在、71カ国に1,526のワイズメンズクラブがあり、27,280人の会員がY M C Aと地域社会に奉仕している。

2. 国際協会西日本区を構成する各クラブの目的

- (1) 奉仕活動を通じてY M C Aの活動を支援する。
- (2) ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
- (3) 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
- (4) 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員を啓発し、積極的に参加させる。
- (5) 健全な友好関係を作り出す。
- (6) 国際・地域・区および部の事業に協力し、支援する。

II. ワイズメンズクラブとY M C Aの関係

- (1) ワイズメンズクラブ運動の中心的な目標は、Y M C Aがその使命実現のために展開する各方面のプログラムに個人として、またワイズメンズクラブ全体として奉仕することにある。

- (2) ワイズメンズクラブとYMCAはパートナーである。ともに共通の基盤を持ち、それぞれが独立し、主体性を持つ団体として相互に協力する。
- (3) ワイズメンズクラブはYMCAの中でYMCAの1クラブとして誕生した。当初はYMCAの内なるクラブとしてであったが、現在ワイズメンズクラブは独立した存在としてYMCAと「協力関係の原則」を結び独立した団体としての関係を持つ。
- (4) ワイズメンズクラブは、社会奉仕団体の一つであるが、YMCAを通して継続的な奉仕活動が可能であるところが、他の奉仕団体との相違点であり、特徴でもある。
- (5) ワイズメンズクラブは、YMCAに地域や社会における情報やニーズの存在を知らせ、リソースパーソンを発掘紹介する役割を果たす。
- (6) ワイズメンズクラブは、地域社会にかかわる様々な社会奉仕に柔軟に取り組み、YMCAと協働する。
- (7) ワイズメンズクラブは、YMCAのボランティア活動、会員活動の中核としてYMCAを支える。

Ⅲ. ワイズメンズクラブ連絡主事について

1. 連絡主事の役割

連絡主事は所属YMCA総主事の任命を受け、ワイズメンズクラブを担当するYMCAスタッフである。クラブ内ではメンバーと同じくクラブの1会員である。西日本区では英語で「**Related secretary**」と呼ぶ。

- (2) クラブ内における連絡主事の基本的な職務は、YMCAとワイズメンズクラブがパートナーとして、その関係を正しく維持、発展させることにある。

2. 連絡主事の機能の推移

ワイズダムの発展の段階において連絡主事の機能も大きく変わってきた。YMCA内の1クラブとしてワイズメンズクラブが成立した当初、連絡主事はクラブ運営の中核にあって実質的なクラブ・セクレタリーであった。

かつては会場設営や食事の手配も連絡主事の大きな役目とされてきたこともあった。区の運営にも大きな関わりを持ち、区理事のスタッフとして「理事秘書」と呼ばれ、YMCA主事が活躍した時期もあった。

3. 連絡主事への呼称の変遷

ワイズメンズクラブに関わる主事に対して古くから「担当主事」の呼称が使われてきたが、1991年7月から「連絡主事」の呼称が使われ、現在に至っている。

なお、東日本区では「連絡主事」という呼称が、単にYMCAの連絡担当というイメージが強いため、東日本区発足を機に「担当主事」が使われている。

4. 各YMCAにおける「連絡主事統括者」の役割

《統括者とは》 一つのYMCAに関係する複数のワイズメンズクラブがある場合、クラブ連絡主事は複数になる。この場合総主事は「ワイズメンズクラブ連絡主事統括者」を任命し、これら複数のクラブ連絡主事へのオリエンテーションと、連絡主事間の連絡・調整・助言にあたらせることが望ましい。

- (1) 連絡主事統括者は、クラブ連絡主事間の連絡を密にするために必要な情報の提供、指導助言を行う。
- (2) 年に適当回数、連絡主事全体の打合せ会（又は研究会など）を開き、情報の交換とYMCAからワイズメンズクラブへの期待や要望を集約する。
- (3) YMCA機関紙にワイズメンズクラブのYMCAへの奉仕や寄付、地域社会への奉仕や寄付などの記事を提供する。
- (4) 新任の連絡主事へのオリエンテーションを行う。
- (5) 各クラブにおいて、連絡主事を助け全ての会員がYMCA会員（維持会員など）に登録するための説明や働きかけを行う。
- (6) 担当主事統括者は連絡主事が関係部会、西日本区大会などに出席できるようにYMCAに働きかける。

5. 西日本区連絡主事の役割

西日本区に関わりを持つ主事はクラブ連絡主事とは異なり「西日本区連絡主事」と呼称される。

日本YMCA同盟はワイズメンズクラブ国際協会東日本区、西日本区との連絡を一層深くするため同盟主事を区連絡主事に任命している。同盟総主事が任命したものを西日本区理事が委嘱する。

- (1) 西日本区連絡主事は西日本区大会、西日本区役員会、西日本区代議員会に列席し、意見を述べることができる。
- (2) 西日本区連絡主事は西日本区と日本YMCA同盟の意思疎通のために機能する。
- (3) 西日本区連絡主事は西日本区の中・長期計画、年度事業方針策定に関して意見を述べるができる。

IV. 連絡主事の役割

ワイズメンズクラブの運営は次の3項目に基づく。

- (1) ワイズメンズクラブ国際協会の国際憲法
- (2) 西日本区の定款
- (3) 各クラブの会則にある。

また、ワイズメンズクラブはボランティアな会員組織として、年々選出される会長、副会長、書記、会計、その他の役割を中心に自主運営されることが、その創設以来のあるべき姿である。

連絡主事は、クラブ自主運営のためにYMCAよりの助言者として補完的に機能する。

1. クラブにおける連絡主事の役割

- (1) 連絡主事は、YMCAとワイズメンズクラブとの良好な関係作りのため積極的に働く。YMCAの現状、課題、期待を、そのクラブの現状に応じて伝達するなど、情報伝達や意思の疎通を図る。
- (2) 連絡主事は、YMCAが志している社会的、国際的な働きがワイズメンズクラブの奉仕の働きとなるようにワイズメンズクラブへ働きかける。
- (3) 連絡主事は、ワイズメンズクラブによる長期的視野に基づく社会奉仕の展開を、YMCAの事業展開のチャンスやヒントとして捉え、YMCA事業に活かすような視点を持って取り組む。
- (4) 連絡主事は、YMCAのプログラムにワイズメンと家族ができるだけ参加するように働きかける。
- (5) 連絡主事は、ワイズメンズクラブの会員からYMCAの新しいリーダーシップ（人材）を発見し、YMCAの担い手となるよう働きかける。
- (6) 連絡主事は、YMCAの学生やユースボランティアなどを将来のワイズメンズクラブの会員としてつなげてゆく。またYMCAのプログラム参加者とワイズメンズクラブとをつなげる役割も担う。
- (7) 連絡主事は、ワイズメンズクラブの各方面にわたる情報を吸収し、それをYMCAの新しいプログラムに活かす役割を担う。
- (8) 連絡主事には訓練を受けたグループワーカーとして、組織としてのクラブ運営の助言者としての働きが期待される。
- (9) 連絡主事はクラブが長期計画、年間計画をたてるとき、資料を提供し、協議に参加する。

- (10) 連絡主事は月例会に出席する。またクラブ役員会、その他の会合、イベントには必要に応じて列席または参加する。
- (11) 連絡主事は、クラブが毎月発行するブリテンにYMC Aの奉仕活動予定、活動情報をはじめ、パートナーとしての関係を維持する上で必要な情報の提供を行う。
- (12) 連絡主事は、自らがクラブの例会、役員会に出席できないときは、代理の職員を出席させ情報の提供、収集に努めなければならない。

2. 所属YMC Aにおける責務

- (1) 連絡主事は、ワイズメンズクラブの活動や奉仕の全体をYMC Aの会員、プログラム参加者、スタッフに機会あるごとに啓発し、情報を提供して正しい理解につとめる。
- (2) 連絡主事はワイズメンズクラブの各方面にわたる情報を吸収し、それをYMC Aの新しいプログラム展開のチャンスやヒントとする役割を担う。
- (3) 連絡主事は、問題が生じた場合は、担当主事統括者又は総主事に報告し、指示を受ける。
- (4) 連絡主事はワイズメンズクラブの奉仕の精神をYMC A機構の中に反映し、YMC A業務の中に生かす。

3. 連絡主事の会費、集会への出席費用及び献金に対する扱い

- ① クラブ会費については全額クラブ負担のケースが多くなっているが、クラブで負担がない場合は所属YMC Aにおいて負担する。
- ② BF / TOFなどの献金は、クラブ会計の予算に組み込まれているクラブではクラブ負担の場合が多いが、それ以外の場合は連絡主事が自主的かつ応分に献金に参加することが望ましい。
- ③ 部会、区大会の参加費は所属YMC AによってはYMC Aの予算より支出される場合がある。

編集後記

ワイズメンズクラブの連絡主事に就任されたスタッフから「ワイズメンズクラブにおいて具体的に何をすべきなのか」という声や、クラブメンバーから「連絡主事の職務をはっきりさせて欲しい」といった意見が数多く寄せられました。これらの意見を踏まえて、西日本区役員会で「連絡主事ハンドブック」製作についてのご承認を頂き、日本YMCA同盟、東日本区とも連絡を取り合い、できれば共同で発行すべく原稿作成に取り掛かりました。しかし、東西日本区の定款の内容が異なることからそれぞれの区において発行することとなりました。

この「連絡主事ハンドブック」の内容は1988年6月開催の、ワイズメンズクラブ担当主事全国集会での協議が基盤となり1991年5月30日に日本YMCA同盟より発行された1991年版「連絡主事ハンドブック」を下敷に、日本YMCA同盟、東日本区のご協力を頂き製作することができました。

1991年版「連絡主事ハンドブック」の“はじめに”には、「日本YMCA同盟は、日本YMCA同盟3ヶ年計画の一環として、YMCA運動とワイズダムの協力の一層の深化を願い、ワイズメンズクラブ国際協会日本区の全面的な協力を得て、「ワイズメンズクラブ担当主事」の全国集会を1988年と1990年に開催、1989年には中間年として各地域での対話を積み重ねて今日に至った。その成果の出版がこの「連絡主事ハンドブック」である。これはいわゆるマニュアルとは異なる。生きた人間の生きた組織であるYMCAとワイズメンズクラブの間に働く連絡主事の立場は千差万別、その身のこなし方もまた刻々の調整が必要であろう。それぞれの連絡主事は自分自身の手引きを作り上げることが求められている。本書はこの作業のための参考となるように編集された」と書かれています。

また、「各YMCAの総主事、ブランチ主任主事はもとより、各ワイズ連絡主事は新しく任命される度に、本書をそれぞれの働きに参照されることが期待される。また毎年交代する新クラブ役員と部役員、日本区役員も、是非本書を研修用テキストに使ってくださるようお願いする。本書が広く用いられ、改訂を経て、長く利用されるならば幸いである」ともあります。

本書がYMCAとワイズメンズクラブが協働する上でお役に立てれば幸いです。

最後に本書発行をご支援頂いた柴田善朗理事はじめ歴代理事に深謝し、お礼申し上げます。

(西日本区Y.Y.L 森本 榮三)

2005年6月

ワイズメンズクラブ
「連絡主事ハンドブック」

2005年6月 発行

発行所 ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
発行者 柴田善朗